

担当者スポット

日廃振センター業務から感じたことを綴る「担当者のコラム」

教育研修部 参与 片山 昇 KATAYAMA Noboru

新たな廃棄物時代に向けて

我家に町内会の班長役が廻ってきた。お知らせ等の回覧と資源ごみ集積所の管理である。月2回の資源ごみ回収日、集積所の光景は様々である。多くはキチンと整理されて品目毎に集められているが、乱雑に衣類やダンボール雑誌等が放り出されているような状態や、回収日の品目以外のごみが出されている、いわゆる「ルール違反」のケースなど。

これらを見ながら、その家の人達が利用していた時と、今ここに廃棄されている集積所の場面、つまり表と裏の面を思いながら、物に対する感謝やお礼の気持ち、「もったいない」の心について考えてもしまう。

何もこの現象は家庭系廃棄物に限らず、産業廃棄物にも言えることだと思う。

社会生活の向上と経済の発展というまことに華やかな表舞台と、その裏舞台で、地道に産業廃棄物の適正処理に努めている産業廃棄物処理業者とである。

近年、地球的規模での環境問題が重要視されてきた折、環境と経済とが裏腹の関係にあることが認識されてきている。廃棄物を含めた環境問題は、これからは社会・経済の向上発展と、同時に自然や環境の保全を持続していくこととが、密接不可分の関係にあるといえます。

廃棄物がこれまでの不用物から循環型社会を構築するための主役へと変わり遂げていくことなど、いままでとは異なる環境と経済とが両立していく、新たな廃棄物時代への転換がスタートしたといえます。

産業廃棄物処理業界は、時代の変化に即した企業体へと脱皮していくために、先ずは自らの意識改革を図り、人材の育成や体質の改善に向けて、ゆるみのない努力を積み重ねていくことが求められています。

私自身、産業廃棄物処理業等の講習会に携わる一人の担当者として、この新たな廃棄物時代への流れを感じながら「少しでも役立つことができれば」と、各地の講習会と向かい合っている。

編集後記

特別企画では、日廃振センターの国際協力の取組を紹介しました。先月船出した連立政権の中心にいる民主党は、「アジアを中心とした環境外交に力点を置く」としていることから、我が国の環境分野における国際協力は今後一層重要となると思われます。日廃振センターでは、微力ながら、これまで培った産業廃棄物分野における国内経験を国際協力という形で生かしていく所存です。

産廃の分野においても、最近では「3R」から「低炭素型の3R」が求められるようになっています。今回の産廃クローズアップで取り上げた「食品廃棄物の液体飼料化」は、食品廃棄物には通常水分が多く含まれていることを考えると、焼却炉での熱エネルギー回収や乾燥飼料化などと比べても、「低炭素型の3R」といえます。今後、様々な低炭素型の3Rの技術やシステムが開発・普及していくことを期待します。（大林）

本誌に関するご意見等の連絡先：事業推進部　e-mail:jigyo@jwnet.or.jp

日廃振センター情報（季刊）Vol.9 No.3　発行日：平成21年10月9日発行　発行人：古市圭治
発行所：財団法人日本産業廃棄物処理振興センター
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-8-4 日本橋コアビル2階　TEL: 03-3668-6511　FAX: 03-3668-6512　http://www.jwnet.or.jp/
デザイン・印刷　株式会社ウィトンズ